

一般廃棄物処理施設維持管理記録簿[焼却]（令和 5 年 8 月）

対象期間：令和 5 年 8 月 1 日～令和 5 年 8 月 31 日

焼却した一般廃棄物の種類及び数量

種 類		数量(単位)
一 般 廃 棄 物	紙・布類	440.56 (t / 月)
	木・竹類	212.46 (t / 月)
	ビニール・合成樹脂・ゴム・皮革類	419.70 (t / 月)
	厨芥類	83.42 (t / 月)
	不燃物類	45.62 (t / 月)
	その他	101.67 (t / 月)

燃焼ガス及び排ガスの分析の実績状況と措置(連続測定記録)

	燃焼ガス温度	集塵機流入ガス温度	排ガス中の一酸化炭素濃度
測定位置	燃焼ガス出口(炉頂)	バグフィルタ前ダクト	バグフィルタ出口ダクト
測定結果が得られた日	令和 5 年 9 月 1 日	令和 5 年 9 月 1 日	令和 5 年 9 月 1 日
測定結果	1号炉月平均 868 °C	1号炉月平均 189 °C	1号炉月平均 69 ppm
	2号炉月平均 876 °C	2号炉月平均 186 °C	2号炉月平均 75 ppm
	別紙参照	別紙参照	別紙参照

※上記のチャート紙は桂苑のみ開示

ばいじんの除去の実施状況と措置

	冷却設備(ガス冷却装置)	排ガス処理設備(バグフィルタ)
ばいじんの除去を行った日	令和5年8月1日 スートフロア 1・2号	平常運転中 バグフィルタの除じんはすべて機器 によるエアージェットのみ。 ※タイマー約3分間で16列を一巡 ※差圧計により反応、ランダムに可 動。一日に10～15回程度。
ばいじんの除去を行った日	令和5年8月2日 スートフロア 1・2号	
ばいじんの除去を行った日	令和5年8月3日 スートフロア 1・2号	
ばいじんの除去を行った日	令和5年8月8日 スートフロア 1・2号	
ばいじんの除去を行った日	令和5年8月9日 スートフロア 1・2号	
ばいじんの除去を行った日	令和5年8月10日 スートフロア 1・2号	
ばいじんの除去を行った日	令和5年8月17日 スートフロア 1・2号	
ばいじんの除去を行った日	令和5年8月18日 スートフロア 1号	
ばいじんの除去を行った日	令和5年8月22日 スートフロア 1・2号	
ばいじんの除去を行った日	令和5年8月23日 スートフロア 1・2号	
ばいじんの除去を行った日	令和5年8月24日 スートフロア 1・2号	
ばいじんの除去を行った日	令和5年8月29日 スートフロア 1・2号	
ばいじんの除去を行った日	令和5年8月30日 スートフロア 1・2号	
ばいじんの除去を行った日	令和5年8月31日 スートフロア 1・2号	

熱灼原料分析結果

	1ヶ月に1回以上	結果	1年に1回以上	結果
採取位置	1, 2号BF・GC下	2.7 %	不燃物コンベア	%
採取した年月日	令和 5 年 8 月 22 日		令和 年 月 日	
測定結果が得られた日	令和 5 年 9 月 5 日		令和 年 月 日	

排ガスの分析結果

		6ヶ月に1回以上	1年に一回以上
採取位置		バグフィルタ出口ダクト	
採取した年月日		令和 5 年 8 月 22 日	令和 年 月 日
測定結果が得られた日		令和 5 年 9 月 5 日	令和 年 月 日
ダイオキシン類		<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; transform: rotate(45deg);"></div>	
ばい煙量又は ばい煙濃度	硫黄酸化物	1号	定量下限値未満 (m ³ /h)
		2号	(m ³ /h)
	ばいじん	1号	定量下限値未満 (g/m ³ n)
		2号	(g/m ³ n)
	塩化水素	1号	定量下限値未満 (mg/m ³ n)
		2号	定量下限値未満 (mg/m ³ n)
	窒素酸化物	1号	46 (cm ³ /m ³ n)
		2号	21 (cm ³ /m ³ n)



第 S2308064 号
令和5年9月5日

試験成績書

ふくおか県央環境広域施設組合 様

株式会社 環境科学システム
〒816-0901福岡県大野城市金東三丁目20番2号
TEL (092)504-9869 FAX (092)504-2891
代表取締役 島林 信広

依頼されました試料の試験結果は、以下のとおりです。

施設名	桂苑 ごみ焼却処理施設
試料名	フライアッシュ
採取年月日	令和5年8月22日
採取時間	5:00
採取箇所	1, 2号BF・GC
採取者	依頼者
試料提出日	令和5年8月22日
試験項目	試験結果
水分 (%)	---
大型不燃物 (%)	---
熱灼減量 (%)	2.7
【備考】	
試験方法：昭和52年11月4日環整第95号に準じた。	



濃度計量証明書

第 N2308168 号
令和5年9月5日

ふくおか県央環境広域施設組合 様

環境計量証明事業 福岡県登録濃度第7号
株式会社 環境科学システム
〒816-0901福岡県大野城市乙金東三丁目10番12号
TEL (092)504-2869(代) FAX (092)504-2893
環境計量士 第環6050号 島林 信之助

依頼されました試料の計量結果は、
以下のとおりであることを証明します。

施設名	桂苑 ごみ焼却処理施設		試料採取箇所	1号BF出口	
試料採取日	令和5年8月22日		採取時間	10:44~11:55	
計量対象		【計量結果】		定量下限値	
硫黄酸化物	Cs	vol ppm	定量下限値未満		0.5
	※ 乾き排ガス流量	m ³ /h *1	15,600		
	※ q'	m ³ /h *2	---		
*3 窒素酸化物	Cs	vol ppm	47		10
	※ C	vol ppm	46		
	酸素濃度 Os	%	11.8		
*4 塩化水素	Cs	mg/m ³	定量下限値未満		1
	※ C	mg/m ³	---		
	酸素濃度 Os	%	13.2		

【備考】

(1) 計量の方法

- ① 硫黄酸化物 JIS K 0103 7.1(2011) イオンクロマトグラフ法
- ② 窒素酸化物 JIS K 0104 7.3(2011) イオンクロマトグラフ法
- ③ 塩化水素 JIS K 0107 7.1(2012) イオンクロマトグラフ法

(2) 算出方法

*1) 乾き排ガス流量

$$\text{断面積 (m}^2\text{)} \times \text{流速 (m/s)} \times 60^2 \times \left\{ \frac{273.15}{273.15 + \theta s} \right\} \times \left\{ \frac{Pa + Ps}{101.32} \right\} \times (1 - W/100)$$

θs : 排ガス温度(°C) Pa: 大気圧(kPa)
 W : 排ガス中の水分量(%) Ps: 排ガスの静圧(kPa)

*2) 硫黄酸化物排出量の計算

$$q' \text{ (m}^3\text{/h)} = Cs \text{ (vol ppm)} \times \text{乾き排ガス流量 (m}^3\text{/h)} \times 10^{-6}$$

q' : 標準状態における硫黄酸化物排出量(m³/h)
Cs: 省令で定める方法により測定された硫黄酸化物の濃度(vol ppm)
(標準状態とは、273.15K(0°C)、101.32kPaの状態)

*3) 窒素酸化物

$$C = \left[\frac{21 - 0n}{21 - 0s} \right] \cdot Cs \text{ (vol ppm)}$$

C: 標準酸素濃度補正後の窒素酸化物濃度(vol ppm)
(vol ppm = cm³/m³)
Cs: 省令で定める方法により測定された窒素酸化物の濃度(vol ppm)
0s: 排ガス中の酸素濃度(%)
0n: 施設の種類毎に定められた標準酸素濃度(12%)

*4) 塩化水素

$$C = \left[\frac{9}{21 - 0s} \right] \cdot Cs \text{ (mg/m}^3\text{)}$$

C: 標準酸素濃度補正後の塩化水素濃度(mg/m³)
Cs: 省令で定める方法により測定された塩化水素の濃度(mg/m³)
0s: 排ガス中の酸素濃度(%)

(3) 上記※印の項目は計量法第107条の計量証明対象外。



第 N2308169 号

令和5年9月5日



濃度計量証明書

ふくおか県中央環境広域施設組合様

環境計量証明事業福岡県登録濃度第7号

株式会社環境科学システム

〒816-0901福岡県大野城市金東三丁目6番12号

TEL (092) 504-5869(代) FAX (092) 504-5893

環境計量士 第環6050号 島林 信彦 印

依頼されました試料の計量結果は、
以下のとおりであることを証明します。

施設名	桂苑 ごみ焼却処理施設		試料採取箇所	2号BF出口
試料採取日	令和5年8月22日		採取時間	12:14~13:18
計量対象		【計量結果】		定量下限値
硫黄酸化物	Cs	vol ppm	---	0.5
	※ 乾き排ガス流量	m ³ /h *1	---	
	※ q'	m ³ /h *2	---	
*3 窒素酸化物	Cs	vol ppm	19	10
	※ C	vol ppm	21	
	酸素濃度 O _s	%	12.8	
*4 塩化水素	Cs	mg/m ³	定量下限値未満	1
	※ C	mg/m ³	---	
	酸素濃度 O _s	%	13.7	

【備考】

(1) 計量の方法

- ①硫黄酸化物 JIS K 0103 7.1(2011) イオンクロマトグラフ法
- ②窒素酸化物 JIS K 0104 7.3(2011) イオンクロマトグラフ法
- ③塩化水素 JIS K 0107 7.1(2012) イオンクロマトグラフ法

(2) 算出方法

***1) 乾き排ガス流量**

$$\text{断面積 (m}^2\text{)} \times \text{流速 (m/s)} \times 60^2 \times \{273.15 / (273.15 + \theta s)\} \times \{(Pa + Ps) / 101.32\} \times (1 - W / 100)$$

θs : 排ガス温度(℃) Pa: 大気圧(kPa)
 W : 排ガス中の水分量(%) Ps: 排ガスの静圧(kPa)

***2) 硫黄酸化物排出量の計算**

$$q' \text{ (m}^3\text{/h)} = Cs \text{ (vol ppm)} \times \text{乾き排ガス流量 (m}^3\text{/h)} \times 10^{-6}$$

q' : 標準状態における硫黄酸化物排出量(m³/h)
Cs: 省令で定める方法により測定された硫黄酸化物の濃度(vol ppm)
(標準状態とは、273.15K(0℃)、101.32kPaの状態)

***3) 窒素酸化物**

$$C = [(21 - O_n) / (21 - O_s)] \cdot Cs \text{ (vol ppm)}$$

C: 標準酸素濃度補正後の窒素酸化物濃度(vol ppm)
(vol ppm = cm³/m³)
Cs: 省令で定める方法により測定された窒素酸化物の濃度(vol ppm)
Os: 排ガス中の酸素濃度(%)
On: 施設の種類毎に定められた標準酸素濃度(12%)

***4) 塩化水素**

$$C = [9 / (21 - O_s)] \cdot Cs \text{ (mg/m}^3\text{)}$$

C: 標準酸素濃度補正後の塩化水素濃度(mg/m³)
Cs: 省令で定める方法により測定された塩化水素の濃度(mg/m³)
Os: 排ガス中の酸素濃度(%)

(3) 上記※印の項目は計量法第107条の計量証明対象外。



第 N2308167 号
令和5年9月5日



濃 度 計 量 証 明 書

ふくおか県央環境広域施設組合 様

環境計量証明事業福岡県登録濃度第7号
株式会社 環境科学システム
〒816-0901福岡県大野城市乙金東三丁目10番12号
TEL (092)504-2869(代) FAX (092)504-2808
環境計量士 第環3050号 島林 博

依頼されました試料の計量結果は、
以下のとおりであることを証明します。

施設名	桂苑 ごみ焼却処理施設	試料採取箇所	1号B.F出口
試料採取日	令和5年8月22日	採取時間	10:42~11:50
計 量 対 象		【計 量 結 果】	定量下限値
ダスト濃度 (ばいじん)	Cs g/m ³	定量下限値未満	0.001
	※ C g/m ³	---	
酸素濃度	Os %	13.2	
※ 温 度	℃	185	
※ 水 分	%	34.3	
※ 流 速	m/s	20.3	
※ 湿り排ガス流量	m ³ /h	23,800	
【 備 考 】			
1)ダスト濃度：標準状態 [273.15K(0℃)、101.32kPa] における乾き排ガス1m ³ 中に含まれるダスト質量を示す。			
2)計量の方法：JIS Z 8808(2013) 排ガス中のダスト濃度の測定方法による。			
3)Cs：JIS Z 8808(2013) に定める方法により測定されたダスト濃度(g/m ³)			
4)C：標準酸素濃度補正をしたダスト濃度(g/m ³) なお、Cは次式により算出 $C = [(21 - O_n) / (21 - O_s)] \cdot C_s$ On：施設の種類毎に定められた標準酸素濃度 12 (%) Os：排ガス中の酸素濃度 (%)			
5)湿り排ガス流量(m ³ /h) = 断面積(m ²) × 流速(m/s) × 60 ² × 273.15 / (273.15 + θs) × (Pa + Ps) / 101.32 湿り排ガス流量：標準状態における湿り排ガス流量(m ³ /h) θs：排ガス温度(℃) Pa：大気圧(kPa) Ps：排ガスの静圧(kPa)			
6)上記※印の項目は計量法第107条の計量証明対象外。			

